

上郡町のゲンバウムシ (Hemiptera: Tingidae)

大貝秀雄¹⁾

はじめに

ゲンバウムシは吹けば飛ぶように小さくひ弱なカメムシであるが、前胸背と前翅の規則的な網目状の構造、多くの種で見られる透明度が高く光沢に富んだ体背面などが実に美しい。また一般に前胸背が多様に変形して複雑怪奇な形状を呈し、これらが同定の際には重要な指標となる。すべてのゲンバウムシは生きた植物に寄生して生活する小型のカメムシであり、多くの種では寄主特異性が強いようである。ただ、越冬する場合には寄主をはなれて、思いがけない環境から発見される場合もある。

日本産のゲンバウムシ科は 10 年あまり以前には 2 亜科 26 属 74 種とされていた (山田・友国, 2012) が、近年は相馬博士による精力的な研究により 2 亜科 32 属 95 種まで増加しており (相馬, 2023), 遠からず 100 種を超えるにちがいないと筆者は予想している。

一方、兵庫県産種としては高橋による報告で 17 種が記録されており (高橋, 1990a, 1990b), その後、アワダチソウゲンバウムシ (山田・友国, 2012), ヘクソカズラゲンバウムシ (植田, 2012), プラタナスゲンバウムシ, ヤブガラシゲンバウムシ, ヤナギゲンバウムシ (以上, 後北ら, 2012), コアカソゲンバウムシ (大貝, 2018, 2022) が追加されたので、これまでに少なくとも 23 種が記録されていたことになる。ただ、高橋の報告以降に追加された 6 種中ではアワダチソウゲンバウムシ, ヘクソカズラゲンバウムシとプラタナスゲンバウムシの 3 種がいずれも近年になって国内侵入した外来種であり (山田・友国, 2012), 兵庫県においては在来種の調査が進んでいないのが現状といえる。

筆者は上郡町のゲンバウムシ相を調査し、以下のよう
に 20 種を確認することができた。そのうち、ミヤモトマルゲンバウムシ, チャイロゲンバウムシ, マツムラゲンバウムシの 3 種は兵庫県初記録になると思われるので、参考として標本写真を掲載する (図 1-3, 罫線幅 1mm)。標本はすべて筆者が採集し保管している。

ウチワゲンバウムシ亜科 Cantacaderinae

1. ウチワゲンバウムシ *Cantacader lethierryi* Scott, 1874
高田台; 1 ♀, 16. VII. 2005 (大貝, 2018, 2022).

上郡の唯一の記録は夏季の夜間に飛来した例である。これは新成虫が分散する時期にあたるのではなかろうか。高橋 (1990a) は本種を 9 月中頃から 3 月までの兵庫県での記録を示しており、これらは越冬中、ないしその前後の寄主植物との間の移動中の個体が記録されたものと思われる。

ゲンバウムシ亜科 Tinginae

2. ミヤモトマルゲンバウムシ *Acalypta miyamotoi* Takeya, 1962
行頭; 1 ♀, 16. VI. 2020 (図 1). 与井; 1 ♀, 28. II. 2024.

兵庫県では初記録になると思われる。*Acalypta* はコケ類を宿主とし、常に水で濡れているようなコケを好む種が多いとされるが、行頭では枯れて乾燥したコケ中で採集し、与井では根元のみ残った立枯木表面の乾燥したコケから得られた。採集月日より、これらはともに越冬場所であったと考えられ、上郡では真の生活環境は未確認である。

3. エゾナガゲンバウムシ *Agramma japonicum* (Drake, 1948)
旭日; 1 ♂, 7. X. 2019, 1 ♀, 23. X. 2019.



図 1: ミヤモトマルゲンバウムシ♂, 全形 (背面).

¹⁾ Hideo OGAI 兵庫県上郡町

従来, 本州等に分布するものはズグロナガゲンバイ *Agramma nexile* とされ, 高橋 (1990a) もこの名で兵庫県から記録しているが, これは表記の種のシノニムとされた (相馬, 2021). 上郡の産地は栽培放棄田かと思われる湿地であり, 背の低いスゲ類などがまばらに生えていた.

4. アワダチソウゲンバイ *Corythucha marmorata* (Uhler, 1878)
高田台; 3 ♂ 1 ♀, 22. VIII. 2004, 1 ♂ 4 ♀, 20. IX. 2004, 1 ♂ 1 ♀, 17. VII. 2005, 1 ♀, 15. VII. 2006 (以上, 大貝, 2018).

2000年に西宮市で発見された北米由来の外来種である. 2004年には神戸市北区でも採集されているが (植田, 2012), 同年に上郡でも確認されたことから, 分布拡大の迅速さが推しはかれる.

5. ヘクソカズラゲンバイ *Dulinius conchatus* Distant, 1903
高田台; 2 ♂ 1 ♀, 24. XI. 2007 (大貝, 2018).

これも外来種で1996年に大阪府池田市で発見された. 兵庫県では植田 (2012), 後北 (2012) などの記録がある.

6. キクゲンバイ *Galeatus affinis* (Herrich-Schaeffer, 1835)
高田台; 1 ♀, 9. VIII. 2008, 1 ♂, 30. V. 2016 (以上, 大貝, 2018). 金出地; 1 ♂ 1 ♀, 27. V. 2020.

栽培種のキクやヨモギに見られ, しばしば既出のアワダチソウゲンバイの大集団の中に少数が混生している状態で見出される.

7. ヤナギゲンバイ *Metasalis populi* (Takeya, 1932)
中野; 1 ♂ 1 ♀, 11. IV. 2020. 八保丙; 1 ♂, 21. VII. 2022.
溜池の土手や公園に植栽されたシダレヤナギから得た.

8. ヒゲナガゲンバイ *Perissonemia occasa* Drake, 1942
与井; 1 ♀, 2. VIII. 2019. 1 ♂, 15. VII. 2020. 金出地; 1 ♀, 22. VI. 2021.
里山に自生するヒイラギから得られた.

9. チャイロゲンバイ *Physatocheila orientis* Drake, 1942
小野豆; 1 ♀, 5. V. 2023 (図2), 1ex, 16. VI. 2023 (腹部欠失で性別不明).

小野豆では2例とも同じツバキの木から得られたが, これは寄主ではなく, 本来の寄主はウワミズザクラとされている (Souma and Ishikawa, 2022). 本種は兵庫県初記録になると思われる.

10. コアカソゲンバイ *Physatocheila fieberi* (Scott, 1874)
高田台; 1 ♂, 20. VII. 2003 (大貝, 2018, 2022). 旭日; 1 ♀,

2. VII. 2022.

従来は *Cysteochila* 属とされてきたが, Souma and Ishikawa (2022) により本属に移された. 高田台として示したポイントには宿主となるイラクサ科草本は存在せず, 新成虫が分散飛来したものであったかと思われる. 旭日ではコアカソと見られる草本より得た.

11. ヤマコウバシゲンバイ *Stephanitis (Stephanitis) ambigua* Horváth, 1912

旭日; 1 ♂, 31. VIII. 2020, 1 ♂, 24. IV. 2021, 1 ♂, 23. IV. 2023. 与井; 1 ♀, 26. IX. 2023.

岩木川沿いにヤマコウバシと考えられる木が群生した個所があり, この木から稀に得られる.

12. クスゲンバイ *Stephanitis (Stephanitis) tabidula* Horváth, 1912

与井; 2 ♀, 1. VI. 2020.

従来用いられていた学名 *Stephanitis (Stephanitis) fascicarina* Takeya, 1931 は異名とされた (相馬, 2023). 上郡の標本はクスから得られた.

13. ナシゲンバイ *Stephanitis (Stephanitis) nashi* Esaki and Takeya, 1931

高田台; 1 ♀, 20. IX. 2003, 1 ♂, 30. IV. 2004, 1 ♀, 5. VI. 2004 (以上, 大貝, 2018), 1 ♀, 26. V. 2021. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♂, 20. IV. 2024.

ナシ, サクラ等のバラ科の木本につく種であるが, 筆者の採集品は, なぜかカエデ, ナツグミ, キウイとバラ科ではない木ばかりであった.

14. ツツジゲンバイ *Stephanitis (Stephanitis) pyrioides* (Scott, 1874)

高田台; 2 ♂ 1 ♀, 5. VI. 2004 (大貝, 2018). 野桑; 1 ♀, 23. V. 2021.

サツキの植栽から採集された. なお, 本種にまじってゲンバウムシの捕食者であるゲンバユカスミカメ *Stethoconus japonicus* や *Stethococcus takaii* がしばしば採集される.

15. シキミゲンバイ *Stephanitis (Stephanitis) svensoni* Drake, 1948

上郡; 2 ♀, 16. V. 2020. 金出地; 1 ♀, 7. VI. 2021. 八保丙; 1 ♂ 1 ♀, 25. V. 2024.

シキミが生えていれば, たいてい本種が寄生しているようである. シキミは墓地や山沿いの小規模な果樹園の片隅などに植栽されていることが多い.



図2: チャイログンバイ♀, 全形 (背面).



図3: マツムラグンバイ♂, 全形 (背面).

16. トサカグンバイ *Stephanitis (Stephanitis) takeyai* Drake and Maa, 1955

高田台; 1 ♀, 29. X. 2006 (大貝, 2018). 与井; 1 ♀, 1. VI. 2020. 旭日; 1 ♀, 25. VIII. 2018.

きわめて多様な植物に寄生し, 上郡ではもっとも普通に見られるグンバイムシである. 正体不明の見慣れぬ木に多数ついているグンバイムシを調べてみても, たいてい本種に決着する.

17. マツムラグンバイ *Tingis (Tropidocheila) matsumurai* Takeya, 1962

八保丙; 2 ♀, 12. IX. 2023 (図3), 1 ♀, 14. IX. 2023.

3例すべて, 立枯れしたアカマツの樹皮層から得られたもので, 越冬にはいって間のない個体であると考えられた. 本種の寄主はミズキと想定されており (山田・友国, 2012), 岡島 (2012) は樹幹がコケでおおわれたミズキのコケの下から多数の本種を採集した経験を紹介している. 筆者が採集した近傍にも根元付近の直径40cmほどのミズキがあったが, 樹幹にはコケを生じていなかった. 本種も兵庫県初記録になると思われる.

18. ヒメグンバイ *Uhlerites debilis* (Uhler, 1896)

高田台 古墳公園; 2 ♂, 31. X. 2019. 八保丙; 1 ♀, 2. V. 2024.

野生種のクリから得られた.

19. クルミグンバイ *Uhlerites latiorus* Takeya, 1931

上郡 鞍居川河川敷; 1 ♀, 11. V. 2020, 1 ♂, 1. IX. 2024. 旭日; 1 ♂ 1 ♀, 24. IV. 2021, 1 ♂, 23. IV. 2023.

すべての標本はオニグルミの群生地 で得たものである.

20. クチナガグンバイ *Xynotingis hoytona* Drake, 1948

与井新; 1 ♀, 14. V. 2022. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♂, 20. IV. 2024.

鈴の宮公園では開花期のカエデから得られたが, その時期は本種が越冬から覚めて寄主への移動をはじめた頃と重なるのかもしれない. カエデを寄主とする根拠はうすい. 山田・友国 (2012) には寄主に関する情報はない.

おわりに

以上, 筆者は上郡町から20種のグンバイムシ科を記録することができた. そのうち3種は兵庫県における初記録にあたり, これにより兵庫県のグンバイムシ科は少なくとも26種となった. 本稿に記録した20種以外で兵庫県に記録のあるものは, マルグンバイ *Acalypta sauteri*, ヒゲブトグンバイ *Copium japonicum*, アザミグンバイ *Tingis ampliata* (以上, 高橋, 1990a), エグリグンバイ *Eritingis recentis* (高橋, 1990b), プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata*, ヤブガラシグンバイ *Physatocheila chiniana* (以上, 後北ら, 2012) の6種である (ただしヤブガラシグンバイの学名は相馬 (2023) による).

隣接する岡山県では, 兵庫県で記録の見られない4種が報告されている. 即ち, ツルグンバイ *Baeochila horvathi*, ルイスグンバイ *Limnostatua lewisi* (旧名ポタンツルグンバイ, 学名も変更), ハシドイグンバイ *Leptopypha capitata*, ヨモギグンバイ *Tingis crispata* であり, 今後これらの種も兵庫県での記録が期待される. これらのうちツルグンバイは2020年に相馬により新種記載された種で, キヅタやツタなどを寄主とする. 筆者は上郡町で本種を精力的に探査したが, まだ見出すことができていない. なお, 兵庫県でも特に日本海側は調査が不十分なため, 各種グンバイムシに関する興味深い知見が得られる可能性がある (相馬, 私信).

謝辞

貴重な御教えをいただき, かつメイリングリストに加えていただいた弘前大学の相馬純博士に深く感謝します.

引用文献

- 大貝秀雄. 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター, 上郡. 94pp.
- 大貝秀雄. 2022. 『兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相』の正誤リストならびに, この昆虫相に新たに追加される種名一覧. きべりはむし, 45(2) : 61-65.
- 岡山県自然環境課. 岡山県野生生物目録 2019 ver. 1.5. 2024 年 5 月 31 日 更新. https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/920070_8802152_misc.pdf
- 岡島賢太郎. マツムラゲンバイ狩り. 石川忠・高井幹夫・安永智秀 編. 2012. 日本原色カメムシ図鑑第 3 巻. 全国農村教育協会, 東京. p. 212.
- Souma, J. 2020. Discoveries of the genera *Baeochila* and *Idiocysta* from Japan, with descriptions of two new species (Hemiptera: Heteroptera: Tingidae). *Zootaxa*, 4731(3): 388-402.
- 相馬純. 2021. 〈解説〉型破りの野外調査：日本産ゲンバウムシ科の多様性解明に向けて. 寄せ蛾記, (180): 1-10.
- 相馬純. 2023. ゲンバウムシ科 15 属 31 種の和名と学名の整理. *Rostria*, (68) : 1-19.
- Souma, J. and Ishikawa, T. 2022. Taxonomic review of the tinging genera *Cysteochila*, *Hurdchila*, *Physatocheila*, and *Xynotingis* from Japan, with description of a new genus (Hemiptera: Heteroptera: Tingidae). *Zootaxa*, 5150(1): 1-42.
- 高橋寿郎. 1990a. 兵庫県のゲンバウムシ (1). きべりはむし, 18(1) : 1-5.
- 高橋寿郎. 1990b. 兵庫県のゲンバウムシ (2). きべりはむし, 18(2) : 27-31.
- 植田義輔. 2012. 神戸市北区藍那の陸生カメムシ類相—2004 年の調査記録—. きべりはむし, 35(1) : 15-20.
- 後北峰之・奥山清市・坂本昇・野本康太・角正美雪・長島聖大. 2012. 伊丹市昆虫館収蔵資料目録 昆陽池公園の昆虫. 伊丹市昆虫館, 伊丹. 36pp.
- 山田量崇・友国雅章. ゲンバウムシ科. 石川忠・高井幹夫・安永智秀 編. 2012. 日本原色カメムシ図鑑第 3 巻. 全国農村教育協会, 東京. p180-213.